

科目名称	基礎柔道整復総論
授業コード	AF214
英語名称	Outline (Study) in Basic Judo-Therapy 5
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	吉田 真琴
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復師が取り扱う外傷（スポーツ外傷を含む）に対する保存療法の意義及び治癒過程である生理的なメカニズムについて、総論で学習した内容を生かし医学的観点から学ぶことを目的とする。また、臨床現場における外傷時の整復に対する知識を深め、整復法の意義、種類についても理解できる力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	単に保存療法の意義やメカニズムについて説明するだけではなく、柔道整復師の業務範囲であるか否かの判断（保存療法の限界）について、柔道整復師としての実務経験（臨床経験12年 現：帝京科学大学八王子接骨院 院長）を活かし講義する。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる、「疾病内容、疾病治療、疾病の回復に関する知識や視野を育成する」を身に付ける為、外傷の治癒過程及び保存療法の有用性に関する問題提起、思考力を養い、保存療法の意義、治癒過程の知識の習得を目指し、施術に対する計画立案ができるようになる。
計画・内容	<p>第1回 保存療法と観血療法 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第2回 保存療法のメリットとデメリット 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第3回 観血療法のメリットとデメリット（保存療法の限界） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第4回 骨損傷の治癒経過（概説・損傷組織） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第5回 骨損傷の治癒経過（治癒過程・予後） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第6回 関節損傷の治癒経過（概説・損傷組織） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第7回 関節損傷の治癒経過（治癒過程・予後） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第8回 筋損傷の治癒経過（概説・損傷組織） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第9回 筋損傷の治癒経過（治癒過程・予後） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第10回 腱・神経損傷の治癒経過 担当：吉田（柔道整復師）</p>

計画・内容	<p>第11回 整復法（骨折の整復） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第12回 整復法（脱臼の整復） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第13回 固定法（総論） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第14回 後療法（総論） 担当：吉田（柔道整復師）</p> <p>第15回 総括 担当：吉田（柔道整復師）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、教科書・配布資料を用いて行う。 ・授業によっては、パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料等を利用する。 ・理解度を評価するため、小テストを実施する。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への質問を活発に行う予定である為、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：授業前に予め解剖学・柔道整復学の教科書（特に総論で学習した、骨損傷・関節損傷・靭帯損傷）を熟読し、不明点をまとめておくこと（各回1～2時間程度：合計30時間） ・復習：授業後は自身のノートに授業内容をまとめること（各回1～2時間程度：合計30時間）
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 改訂第7版【南江堂】2022年 ・配布資料
成績評価方法と基準	小テスト（20%）+期末試験の成績(80%)により評価する
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<p>本講義は、柔道整復師が行う保存療法について講義する。</p> <p>保存療法の意義を理解することは、患者の予後を大きく左右する為、本講義は臨床現場においても非常に重要な内容である。</p> <p>事前に柔道整復学総論について予習をすることが望ましい。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する。</p> <p>成績評価方法と基準：課題(20%) + 小テスト（20%）+ 期末試験の成績(60%)により評価する</p>